

## 第4回

# 東大和市社会教育委員会議 会議録

平成30年7月23日（月）

平成30年第4回 東大和市社会教育委員会議のまとめ

- 1 日 時： 平成30年7月23日（月）午後3時～午後4時40分
- 2 場 所： 市役所会議棟第8会議室
- 3 出席委員： 荒川進、大月孝彦、佐伯あつ子、杉本誠一、柳澤明、外池武嗣（6人）  
欠席委員： 松村正博、森脇千春、金山幸子（3人）
- 4 事務局： 佐伯課長、國森係長、手塚主事（3人）
- 5 内 容：
  - （1）議題
    - ① 研究テーマについて
    - ② その他
- 6 公開・非公開： 公開
- 7 傍聴者数： なし

## <会議内容>

○荒川議長 ただいまより、「平成30年度第4回東大和市社会教育委員会議」を開催いたします。よろしくお願ひいたします。最初にお手元の資料の確認をさせていただきます。事務局お願ひします。

○手塚主事 はい、では資料の確認をさせていただきます。会議資料としては、資料1の「全国社会教育委員連合の持続的な発展のためのアンケート調査について」というもののみをお配りしております。その他の配布資料につきましては、「とうきょうの地域教育」、「教育委員会だより」、「こうみんかんだより」を配布させていただいております。資料に不足はございませんでしょうか。確認は以上です。

○荒川議長 ありがとうございます。それでは、資料も揃っておりますので、これから議題に沿って進めたいと思ひますけども、第一中学校副校長の佐伯あつ子先生、今日初めてこの会議に出られますので、一言ご挨拶いただきたいと思ひます。よろしくお願ひします。

○佐伯委員 申し訳ありません、いつも来られませんので。一中副校長の佐伯あつ子と申します。よろしくお願ひします。昨年度までは、八王子の横山中学校というところにおりました。4月からの昇進で突然来ておりますので、ほとんど何もわからない、新しい職についた位の感じなので、いろいろおちていますが、よろしくお願ひいたします。

○荒川議長 よろしくお願ひします。それでは、「研究テーマについて」話し合いをしていきたいと思ひますけれども。

○佐伯課長 議長すみません。改めて、皆さん、こんにちは。お暑い中、お集まりいただきましてありがとうございます。すみません、この後、会議がございますので、ご挨拶だけ、先にさせていただければと思ひます。日頃から本当に、皆様には社会教育委員としての活動ありがとうございます。非常に、暑い日が続いておりますが、皆さんこの暑さというのは、今までにない状況かと思ひます。第一中学校、佐伯先生で、私も佐伯なのですけれど、1学期が7月20日に無事終業を迎えて、夏休みの期間に入ったということになっております。夏休みとなると暑いということで、私ども市民プールが「東大和市ロンドみんなのプール」が7月14日土曜日からオープンし、今年は9月2日日曜日まで開会しております。初日14日無料ということで、開場したところ、約2,300人の方がおみえになりました。また、日曜日、月曜日の祝日も、良い天気だったということもありまして、日曜日が2,500人、月曜日が3,800までいったと思う。満杯ということで、非常にこの天気と共に、プールは賑やかになっております。そんなこともございます。また、杉本委員も一緒に動いていただきましたが、先週土曜日の日、第51回東京都市町村総合体育大会というのが開催されまして、その開会式が東大和市のハミングホールで行われました。各市町村から参加をいただきまして、盛大に、開会式は滞りなく終わった次第でございます。幹事市として、東大和市が務めますのが30年ぶりの大役を務めさせていただきます。無事終わります。昨日日曜日は競技が各市町村、第3ブロックの立川市、昭島市、国立市、武蔵村山市、東大和市の5市で、14競技22種目をそれぞれの各市が担当しましてやっております。22日昨日まで、暑い中だったのですが、怪我・事故なく終わったと報告を受けています。あとは29日のもう1回競技が、まだ実施されていない競技が数種目ありますので、そちらの対応と8月5日の閉会式ということで、今、準備を進めております。また、合わせて郷土博物館でもプラネタリウムを夏番組ということで、3本立てにやっております。暑いよりも涼しい博物館へ来てくださいと、夏休みの学習にも活用いただければなと思っております。また、来月になりますと、7月、8月になりますと、初めての対応になります。広島派遣小学生10人と東村山の中学生、小学生と一緒に、20人で8月5、6、7で派遣事業に随行していく予定でございます。また、8月18日には、「第14回平和市民のつどい」が、変電所前の都立東大和南公園の平和広場の前で開催する準備も合わせて進めております。社会教育

としては、いろいろと事業も進めておりました、皆様との会議等含めて、いろいろなお意見もいただきながら進めていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。私は、また1回ここで中座しますが、第2部で、また顔を出させていただきますので、よろしく願いいたします。以上でございます。

○荒川議長 ありがとうございます。今の報告にあった広島の実業は、どんな様子ですか、今。

○國森係長 今週の金曜日に、広島派遣に行く子たち、東村山10人、東大和10人、皆さんで学習会というのをやらせていただく予定になっています。東村山に行ったり、東大和の拠点は博物館でグループワークとか、あと変電所に行ったり、そういった学習会を踏まえて、本番に臨むという形で、今、進めております。

○荒川議長 両市の子どもはバラバラにグループを作るのですか。

○國森係長 合わさった形で。シャッフルして進めて。中学生が10人、小学生が10人いる。中学生が6人か、小学生が14人位はいて、中学生にリーダーになってもらってグループ分けしてやっているような状態です。

○荒川議長 こっちのほうは、みんな小学生でしょう。

○國森係長 そうです。東大和は、みんな小学生です。

○荒川議長 なんですかね。

○國森係長 募集したのですが、去年までは中学生しか募集はしていなかったのですが、今年から小学生、中学生ということで募集したら、どうも中学校は、なかなか、多分部活とか、そういうのもあるので、集まりというのは悪いのですかね。小学校5、6年生がかなり申し込んできていただいて。

○荒川議長 今までは中学生だけだったから、中学生いたわけだね。

○國森係長 ただ、なかなか集めるのに苦労していたらしいです。話を聞くところによると。

○荒川議長 そうなの。頼んでたのかね。

○國森係長 はい。頑張ります。

## 1. 研究テーマの設定について

○荒川議長 お願いします。それでは、「研究テーマの設定について」というところで、私も資料を1枚お配りしてあります。審議経過及び予定の案ですが、佐伯先生は、新しくこの会に入って内容多分あまり伝わってないと思いますので、ちょっと繰り返しになる部分がありますけれども、コメントさせていただいて、絞るような案がかけなければいいかなと思っています。

(1) 昨年12月19日からずっと書いてありますけれども、この(5)までは、昨年度の前年の期のものでありますから、本来は今期我々の内容ではないのですが、前期からどんな課題があるかということも挙げていきたいと思いますので、話し合いを積み重ねていきました。それを踏まえて今期の6、7まで、話し合っ、今日が第8回となりますけど、正式なカウントは6からということになります。

(1)の昨年12月19日に、こんなことが社会教育としての課題ではないですかという話し合いをしたものが、黒ポチの部分です。「持続可能な地域づくり」ということが高齢化社会を迎えて、課題になっていますと、社会教育もちろん、その一つですと。高齢化時代を迎えて、地域の様々な組織、公民館活動等も含めて、若い人に引き継ぐのが非常に困難になっている。場合によっては組織そのものがもう消滅をしてしまうと。それをなんとかしなければいけないのではないかと、そんな課題がありますということです。それから、2点目は「家庭教育」についてです。いろいろ子どもの問題もありますけども、やはり家庭教育が基本ではないかと。地域と共に家庭教育で教育力を育てないと、健全な子どもは

育たないと。親教育の場というのは、どういうのがあるのだろうか。今までは、PTA活動なんかをやりながら親自信が学んでいったと。そういう場があったのですが、それもだんだん怪しくなっていると。その他に親教育の場というのはどういうのがあるのか、それが社会教育として大きな課題の一つではないだろうかという話です。3点目は、不登校の子が地域にもいっぱいいるはずなんだと。中学校の不登校の子どもたちが、中学校を卒業したらいきなり社会に出て活躍しているとは思えない。そうすると、学校を離れてしまった段階で、どこからも手を差し伸べられてない子どもたちがかなり隠れているのではないか。それを社会の力で手を差し伸べるといことが、社会教育としては大事ではないかという。もっともなことですが、実情も方法もかなり難しいですけど、大きな課題であると、そんなことが話し合われました。

それから、1月16日になって、やはり前回で出ていたのと同じようなことで、親とか、家庭の育つ場をどうするか。大人の社会の教育力の力をつけるということですが、そういう場は一覧表で全部挙げたらどうかとか、どういう方向性でこの場を育てていくにはどうするのだと。PTAと先生との連携はどうなっているのだと。そういうことも研究してみたらどうでしょうかというのが、1月の会議で出てきました。

2月20日、文化協会の話が出まして、やはり高齢化というのは、ご多分に漏れずありますと。加入のメリットというのが特段ないので、若干組織も高齢化が進んでいますと。それについての何か方策があるか、活性化の方策があるかということが問われているのだということがありました。それから、2点目は、子どもの貧困と社会教育。東大和など、あまり子どもの貧困ということが声高に叫ばれてはいませんが、貧困家庭というのはかなりの数あるし、子どもも十分に恵まれているわけではない。そういう、子どもの貧困について社会教育としてどう関わるか。子ども食堂などということが言われます。市内でもあるようですが、福祉という面と教育面と重なる部分がありますけども、どう関わっていったらいいのだろうかということ。3点目は、高齢者の学習。教育とか、活躍の場とか、やはり人生百年時代に向けてどういうふうにしていったらいいのか。在り方です。場は、組織は、方法はということも研究対象であろうということが挙げられました。

3月27日、「特色あるスポーツの振興」というのは、スポーツの振興そのものは社会教育の大きな課題ではありますが、その切り口として、全面的にやるというのは良いのだけれども、いくつか一つ、二つ、東大和はこれを中心にやっていますというのを、いわばキリの先端として、それを充実させることによって広めていくというやり方はどうでしょうか、目玉となるスポーツの設定ということをしたらどうでしょうかという話が出てきました。そうすると、地域性というのは、どうしても大事になりますので、丘陵と湖の活用をという切り口があるだろう。それによって、スポーツの振興を図って、市の知名度も上げていったらどうでしょうかと。こういう社会教育的な取り組みはないかということ話し合いました。

4月、「地域と学校の協働」ということで、都の生涯学習審議会中間まとめを出されていますけども、学校だけで子どもの教育を支えきれない時代ではない。やはり地域の力を借りて学校教育もやらなければ、学校教育がもうギブアップしてしまうと。そういうことで、要するに、協働ということですから、学校と地域が一緒になって子どもの教育に取り組んでいく。そういうことを考えたらどうかということです。その背景には、学校の先生方の働き方改革、クラブ活動を始め、日常の授業においても、先生方だけではやりきれない。そういう大きな流れの中で、先生方だってきちんと労働時間を確保した上で、あとはボランティアでやるのはいいけど、今はもうすごい過重負担になっているのではないかということが背景にあるということ。それはまた、コミュニティスクールというような、ある意味では理論的な支えも

あるのですけども、学校のカリキュラム自体も、学校だけで設定して、あとはこれ地域にお願いします、これはこの地域の団体にお願いしますという時代ではない。カリキュラムの編成自体も学校と地域で力を合わせなくてはならないと。そうしないで、ただ助けてくださいというだけでは動きませんよということで、生涯学習審議会では、協働ということを訴えていますけども、これもかなり現状とかけ離れている。そんなことがありますけど、研究したらどうでしょうかということ。それから、中学校部活動の指導体制。これも昨今、新聞を賑わせていますけれども、先生方がもう倒れるまで365日やるというのがありましたけども、そういうことを何とか地域社会で、これもスポーツが多いですけど、文化部系統も制限かなりしなければ駄目だということを言われています。ブラスバンドとか、合唱とか、そういう、ほぼ毎日やっている部活動がありますけども、それも見直しをするためには、学校だけで手を引く、それで終わりという訳には多分いかないでしょうと。そんなことについて考えたらどうかと。これ以前やりましたけども、その後、どうなっているか把握できていませんけども、大きな課題であることは間違いない。

年度が変わって、今期5月15日、ちょうど新潟で事件があった時で、子どもの安全確保。学校と地域社会、PTAとか、あるいは様々な安全を守ってくれる団体、それから企業など、そういうところの連携を図りながら、子どもの安全確保をするためにはどうしたらいいのだろうか。社会教育的な視点から、この安全確保ということを進めていくことはできないか。警察にお願いするということだけでは、社会教育とは言えませんので、地域住民の意識を高めるということが社会教育ですから、その中に、PTAも、あるいは様々な団体も、あるいは商店、企業などにも、地域の子どもの守っていただくという働きかけ、これは社会教育だろうということで、話が進んできています。その延長線でしょうか、子どもの居場所づくりというのもあるでしょうということです。

前回、5月の話の続きということでしょうけども、子どもの安全を支える社会教育、そういう視点で、これやったらどうでしょうかと、子育てしやすい街づくりという位置付けになりますということです。この市民の意識づくり、組織作りというのが、まさに社会教育ですから、交通安全とか、不審者の被害対応です。それから、地震の時のブロック塀が崩れるというようなことで、安全マップを作るとか、それを点検するとかということ。そのためには、中学生が単に守られる側ではなくて、助けるとか、率先して津波など、率先して逃げるのが役割だということを言っていましたけれども、そういう中学生の役割などは、社会教育の一環のものとして考えていく必要があるだろう。それから幼児とか、高齢者の虐待という問題も隠れていると。幼児がごめんなさいと手紙書いて死んでしまったという痛ましい事件がありましたけど、そんなことも含めて、地域の役割とか、家庭支援をどうするのかとか、これはもう福祉と紙一重ですけども、やはり社会教育としての力がない、地域に力がないと、こういうようなのは絶対防げないだろうと。前期の冊子の中にも少しお節介で、そういう隣りの人とか、地域の人とかというのが、やはり必要なだろうということは書かれましたけども、それももう1回整理してみたらどうでしょうかとか、こんな経緯で流れてきています。

今日は7月23日ですけども、この他に何かあれば加えて、こんな視点もあるよということを出していただいて、これで12月から7月まで、ほぼ半年、ある意味ではもう何回か言ったよということがあるのですから、目新しいものが課題というのも多分ないかもしれませんが。従って慌てることはないのですけど、目論見としては9月の、8月ありませんから、ふた月ありますが、9月のこの会で、ほぼ、今期はこの課題を深めましょうというふうにできればいいかなと思っています。今日は、新しいこんな課題がありますよというのでもいいし、もし絞るのならこれがやはり1番、全部大事ですけど、全部大事だけでも、これは大事ではないですかというのがあれば出していただいて、だいたい方向性ができて、

9月にではこれでいきたいと思いますとなればいいのかと思っています。そんなふう今日の話し合いが進めばいいかなと思っておりますけど、よろしいでしょうか。また、何かありますかという、もう何回も言ったので、今はもういいですよという人が多いのですが、佐伯先生、初めてでちょっとわからないことがあったかもしれませんが、こんな流れで、今、やっていますので、質問含めて結構なのですが、何かあったらご質問いただいて、私のほうでもお答えするし、あるいは、こんな視点が中学校などではありますというのがあればありがたいのですが、よろしいですか。

○佐伯委員 この研究テーマは、研究してどこかで発表したりするのですか。

○荒川議長 それは言いませんでしたけども、2年間で1期ですので、あと1年半ありますから、そのいつ出すかは、まだはっきりしませんけども、発表はしません。発表しませんというのは、口頭発表はしません。この提言ですから、教育委員会に提出します。冊子にまとめてです。その冊子は教育長宛てに出して、教育委員会で協議して受理するんだね。それで終わりではなくて、市長にも届きますし、議員さんにも全部配布されます。そうすると、議員さんも目を通して、こんなこと書かれているけど、市はどうなっているかというの、だいたい議会で質問されます。教育委員会がそれに対応して、現状はこんなふうですか、こんな課題がありますとか、そんなやり取りがあるのです。そこからは政治的な問題ですから、ではそれをやるべきだと言うか、わかりましたで収まってしまうのか、それは議会で決めることですが、そんな流れで、ただ出して終わりということにはなりません。市のその議会が中心ですから、中心には間違いなく届きます。そんな位置づけです。市民に発表とか、講演会とか、そういうのはやりません。何か気づいたことがあれば、いきなりで、ちょっと戸惑っているのでしょうか、他に何かこんなことをあるよということがあったらお願いいたします。これを中心に、この部分を中心に研究したらどうですかという意見でももちろん結構ですので、お願いいたします。どうぞ。

○大月副議長 先日の西日本の豪雨、災害。他人ごとのように思っていると思うのですが、自然災害、今、特にゲリラ豪雨ですか、全然東大和の被害がないというのではないので、このテーマに沿うかわからないのですが、地震だけではない災害。今年は、ちょっと、今のところもゲリラ豪雨が発生していないのですが、去年も水が出て東大和の駅からずっと東大和病院のずっと向こうのほうですか、あの通り一帯は全部交通遮断になって、すごい大変な水が出ていますね。多分、東大和の中でも、私も全部把握していませんけど、新堀とか、向原とか、南街地区の交番付近とか、駅前、それから新青梅のほうもずっとそうですけど、すごい水が出て、あつという間に出て、あつという間に水が引いてしまいますので、わからないのですが、出ている時は本当に川、運河みたいに轟々と流れて、通行止めになっています。そういう災害、いつ発生するかわからない、そういうものも、やはり夕方かもしれませんし、学校の授業中になるかもわかりませんし、いつ何時、起きるかかわからないのですが、そういうこともやはり検討する必要があるのかなと、西日本のあれ見て思いました。ああいう東大和の場合、がけ崩れとか、そういうものもないわけではないと思うのですが、それほどあそこまでひどくならないと思うのですが、やはり災害は起きると思うのです。そういう議論をしておく必要あるのかなと思うのですがどうでしょうか。

○荒川議長 その水はどこへ履けていくのですか。

○大月副議長 最終的には、市の残堀川というか、何というか。

○荒川議長 交番前あたりでしょう、水没するの。それがこっちまで流れてくるのですか。

○大月副議長 あそこに川が流れていますよね。

○柳澤委員 空堀川。

○大月副議長 空堀川。空堀川に行くのです。東大和の水は、みんなあそこへ行くのです。空堀川が満

杯になってしまうと、要は流れないのです。低い時は通っていきますけれど、こういうふうになくなってしまえば、そこからいけませんので、逆流してしまうのです。それが全部、マンホールとか、何かで跳ね上がってくるのです。見たことありませんか、すごいです。去年、私も車でたまたま走ってしまったのですが、家の前帰って来れなかったのです、全部通行止めで。東大和の駅から全部ストップです。水が轟々と流れていますので。何年か前も東大和の駅前、運河みたいに轟々と、誰も信じないと思うのですが、こんなに深く轟々と、この水どこに行くのかな、どこ行ったのかなというか、轟々と流れています。東大和の南街地区の交番のところ、ものすごい雨が降った瞬間、ものの30分、集中豪雨になって、あそこに行っていますと、四方から水がきまして、どんとぶつかるのです、すごいです。誰もわからないと思うのですが、本当に運河ではないのですが、水が押し寄せてくるのです。交番のところの4つの信号のところ、ぶつかりますけれども、すごいです。あの辺の人たちみんな土嚢を用意してあります。あれは自分の店の中へ入らないように準備しているのです。自分たちが今住んでいるところは、あんまり関係ないからそんなに關心を持ってないと思うのですが、そこに住んでいる人たちにすると大変なことです。また、1箇所だけではありませんので、そこらじゅう水が出ますので。

○杉本委員 市ではかん水とか、そういうハザードマップ的な何かそういったものは作成されているのですか。

○國森係長 おそらく作っています。恐らくではなく作っています。部署としては土木あたりで作ってはいると思います。確かに、今、大月委員がおっしゃるように南街の交番というのは、あそこは今一番有名というか、どうしてもいってしまうところだとは聞いています。

○大月副議長 駅前からずっと道路は、今、歩道橋を拡幅して、ずっと1.5が2mになったりして道路がきれいになっています。きれいになっているのですが、下水は一緒なのです、変わらない。下に入っているあれまでは変えていませんので、道路とか、歩道橋はきれいになっていますから、それ見ると水も一緒にきれいになっていると思うのですが、少しずつは改善してやっているのですが。私も携わっていますが、それでは追いつかないです。

○荒川議長 あそこの水を排水するためには、下流を整備しないから駄目だという議論を聞きます。

○大月副議長 残堀をずっと清瀬のほうまで、向こうの東久留米のほうまで、ずっともっていついていきますので、今、ずっと工事やっていて、どこまでいったか、私も進捗状態わからないのですが、向こうまでやらないとさばききれないです。

○杉本委員 特に住民の方は、大雨とか、その状況になった時は外へ出ませんから、家の中に引っ込んでいますから、避けて。だから状況がわからない。その場所の人しかわからないということもありますから。

○大月副議長 私もたまたま。

○杉本委員 映像でも残さないで。

○大月副議長 防災の会に入っているのです、そういう気になるので、やはり行きますので。だいたいマンホールのほうから水が噴き出ています。すごいですから。バスは通れなくなります。立ち往生します。バスだと止まってしまうので。みんな乗っていた人が、みんな足まくって、女の人でも、男の人でも、じゃぶじゃぶ降ろされて出てきますので、そういう状況です。多摩信さんとか、あのへんもすごいですけど。あとスーパーいなげやは、いつも水が入って、エスカレーターやられています、すごいです。

○柳澤委員 排水能力は、低いということですね。それ以上の能力持たないと追いつかない。そこを直さないと絶対に直らないです。



○荒川議長 その水を出し場の下流を広げるか何かしないと駄目なのです。いくら排出したって、先が詰まっているのだから。

○柳澤委員 それには相当お金がかかるだろうし、時間もかかるし。市も動いているのかどうかですよ。ね。

○大月副議長 市も手をこまねいていないで、公園のところに大きい水枡を作って、溢れた水を地下に浸透させるような大きいやつ作ったりやっていますけど。あと、今、元の都営住宅跡地のところにも、そういう大きい水枡を作ろうという構想はあります。

○杉本委員 街道団地のあそこはやっていますよね、あそこは。

○國森係長 そうです。そういう話です。

○杉本委員 あれは完成しているのですか。

○國森係長 まだ、まだです。

○大月副議長 どのくらい掘るかどうかわからないですけど、すごいやつを考えています。要は、今は、ほとんどの家の水が全部道路に出ますので、下水へ行きますから、溢れてしまうはずですよ。いつも夕立が来て、夏、ものの30分大雨が降っている時、あまた水が出るだろうなあと考えていますので、行くともうすごいですから、溢れてしまっていますので、水が轟々と流れていますので。

○荒川議長 大きな公園の下辺りには、水溜です。村山の南公園などの、あれすごかったですけど、今はもうないですね。

○大月副議長 ないです。昔は、すごかったです。

○荒川議長 あれ南公園のその下にもちょっとあるのですよね。だからその手当てをして、下に吸い込ませるか。川に吸い込ませるのが、やはり下流整備だということですかね。原因がわかっているし、対策もわかっている。だから広島あたりの山崩れとは、ちょっと違うのです。

○大月副議長 違いますね。

○荒川議長 今の大雨の被害などは、崩れるかもしれないというのはわかっていたけれども、逃げなかったというのは、あれはやはり住民教育の問題が絶対欠かせないと言っていましたよね。命は、自分で守らなければ絶対駄目だとか。山崩れを100%防ぐことはあり得ないのだから、まず逃げなさい。いくらハザードマップ作っても、それを深刻に受け止めない住民意識、それは社会教育ですからね。それをしなければいけないというのは議論していますが、今のは、ちょっと違うもの、これね。逃げるといったって、被害は住宅だけだからね。だけど大事な視点。ダムが決壊したら、東村山ですかね。下流の住宅は。あれは東村山でしょう、あの住宅は。

○國森係長 そうですね、東村山のほうですね。

○荒川議長 百年に一回の大雨が降るなんて言っているのだから、嫌なところにありますよね。あそこが決壊するようだったら、やっぱり、危ないから、逃げるようだね。

○大月副議長 その光景見ないと、ピンと来ないから、きっと関係ないように、他人事のように思うと思うのですよね。

○荒川議長 看板立っているよね。道路にね。見たことない。だけど、普通に晴れている時は、ここに水が溜まるかな、という感じですよ。低いわけでもない。

○大月副議長 立看板ありますよね。雨降った場合は、通行止めになりますと。実際、通行止めになってしまいます。さっき仰ったように、雨降った時は外に出ないからわからないですからね。自分の家のところが水が出ない限りは他人事ですから、またその光景を見ることもないですけどね。すごいですよ。半端じゃないので。去年もニュースかなんかで出ていましたよね。

○**國森係長** 出ていましたね。ちょうどバスが水に浸かっている映像が映っていました。

○**大月副議長** まさしくバスが止まってしまったのですね。動けなくなってしまった。水で。それほどすごい水が出ているのですね。

○**荒川議長** そのほか、気付くこととか、今までの中で、ここは今回やったらどうでしょうかとか、意見がありましたらお願いします。

○**外池委員** あのいいですか。私の住んでいるところが空堀川のすぐ上なのですね。もうやっぱり、すごいですよ。それで、東村山の境に遊水地がありましてね。いざという時はそのところがいっぱいになりますよということで、普段は公園みたいな感じになっているのだけれども、それでもいっぱいになりますね。恐ろしいくらいです。いろいろなものが流れてきますしね。水道の人が、警戒していますけれど、そういう時に川に近付かないようにというけれども、結構お年寄りが見に行くのですよね。心配で。私なんかも見に行くほうなのですけど、大丈夫かなとかね。子どもたちも、危険だから見ないとかではなくて、やはり側に近付いていく子どももいて、たまに流されたりして、そのようなことが昔にはありましたけれども、そういう予想もしない大雨とか、洪水とかね、こういう時に人間はどういうふうに行動するのかなという。或いは、教育の中で、予測もつかないような。西日本の豪雨なんかでも、ダムが放水して、結果的に下のほうの、洪水で住民がね、こんなふうになってしまったというので、それは行政は行政としての仕事もあるのだろうけれども、なんかちぐはぐなところがあって、私は日本の地形を見た場合は、山にへばりついている、住宅がね。それで、当然起こるべきこと。山の下に住宅がある家は。土砂崩れだとか、大雨とか、地震でもそうなのですけども。それがもろに今回出たと。あんな雨が降るとは思わなかったと言うには、それはね、まさかという、そういうことというのは、普段から大地震の時はどうするかとかね。わりあい大きな災害があった時なんかは、気にするのですけれど、日本人てやっぱり忘れますね。子どももそうですけれど。絶えずそれを気にかけていかないとね。そういう意識をどういうふうに、やっていくかという、避難訓練というの、なんか形骸化しているのかな。そういうように感じますね。それからここの中でも日射病なんかでも騒いでいますけれども、大変なことだと思いますけれども、都立高校なんかの情報を知ると、9時から5時までの部活動は、4時で切り上げると。文化部でも、運動部でも、この夏は。そんなふうに通達を出したみたいなのです。ですから、どこの県か、30分くらい学校の周りをいろいろ、見学だか、そしたら小学校1年生の子が、日射病で気持ち悪いと。やっぱり30分歩いただけでとまず思うかもしれないですけど、そういう子もいるというようなことを、本当に、15分から30分外にいただけでも気持ち悪くなってしまふ。昔ならそんなのは、忍耐力で我慢しろとかあったかもしれないけれど、そういう弱い子もいるのだということを、社会全体で網を張って、大事に育てていくという風潮が、私は大事だと思うのですよね。なんか肝心なところで、ちょっと安全ということが、日常当然のように受け止めているというところが、ちょっと私、心配しますね。感想なのだけれども。

○**荒川議長** 今、昔の常識が通用しないと、盛んに言っていますけれど、そうなのですよ。百年に1回の大雨と言っても、百年じゃ大体記憶は普通放っておいたら消える。この間テレビで、50年で消えるって言っていましたね。50年で。だから物心ついて、歳取って60、70になったら、大体忘れてしまっている。そうすると、ここまで水が来たとかという石碑なんかを建てておくとかね。そういうのが意味があるのですよ。石碑の裏に、なんとか大震災の時はここまで水が来たという、津波石みたいなものがあるでしょ。ああいうのは意味があるんだと言っていましたね。この間の東日本大震災の時には、竜安寺ですかね、門前まで水が来ているのですね。そこに標識を。ここまで来ていましたよと。松林の中ですね。だから東大和なんかそういうのは、極めて少ないから、大震災でも、記念碑でも、石でもあ

るかと言ったら、多分ないのではないですかね。それほど何もない地域だから、多分少ないのですよね。津波が来るところだったら、絶対ありますよ。ここまで水が来たというのがね。それでいいかというのがという時代でしょ、今。

○外池委員 そういう災害が起こると、結局は個人の負担なのですよね。行政がいろいろやってくれたりするだろうけれど。住宅は、最終的には日本は、個人にも負担がかかるというかね。

○荒川議長 ほとんど個人ではないですか。お見舞い金くらいですよ。

○外池委員 何年もやっぱり、避難所から抜け出れないなんて、現実にそういう人たちが。

○荒川議長 都心部のほうが、水の被害が、河川決壊ではすごい被害らしいですね。東日本大震災で、あれだけすごい被害を受けたものの比ではないのだそうです、荒川が決壊すると。それもまずは安心なのです。どこから切れるって、多摩川が切れたってここは絶対大丈夫でしょ。だけど、都心部というのも、荒川の決壊なんて、昔私荒川の縁に住んでいましたが、堤防の両側に沼があるのです。ずっと沼が並んでいる。大体カーブのところで、昔切れたところがある。切られてしまった。田んぼの土が挟られて、もう埋め戻さないから池になっている。それが両側にずっと並んでいるのですよね。そのところに、今みんな埋め戻して、家が建っていますから。川の流れはさほど変わっていないけれど、いずれ百年に1回とかの大雨でやられてしまうのです。

○外池委員 あの工場の爆発とかね、航空機の墜落とかね、危険が、考えれば考えるほど、まさかということが起こらないとも限らない。そういう時に人間どういうふうに行動するかというね。

○大月副議長 たしかに、防災訓練というのは皆、地震のことを想定した防災訓練ですよ。実際そうじゃないですよ。今仰った、自然災害的なものも何が起きかわからない災害、そういう対応は考えなければいけないのです。

○荒川議長 今回の被害者も、ほとんど高齢者ですよ。人がいなかったのですかね。要するに老人家庭なのですかね。半分以上年寄りでしょ。まさか置いて逃げたのではないと思いますけれどね。そういう住宅地の年齢構成なのかな。そこのあたりはよくわかりませんが。

○大月副議長 たまたまうちもちょっと法事があって、うちのが四国の松山に行っていたのです。姉の家泊まっています、その横の横の2軒のうち1軒流されたのです。崖で。崖崩れで。姉の家は大丈夫だったのですけれどね。すごい怖い思いをして帰ってきたのですけれども、飛行機はだめだ、電車は止まってしまうわで大変な思いをして。やはり放送はしていましたと言っていましたけれどね。どここの公民館へ避難してくださいと。だけど、あの大雨降っている中で避難しなさいと言っても、年寄りは多分行かないと言っていました。大丈夫だろうと、行かない、逃げないと言っていましたね。公民館へ行ったからといって、公民館は快適なはずではないので、やはり自分の家に居たほうが安全だという考えを持っているので、だから被害が発生したのではないかなと言っていましたね。避難しなさいと言っても、よっぽど消防とかそういう人たちが連れて逃げないと、多分避難しないのではないかなという言い方していましたね。

○外池委員 あの不審者とかね。近隣で信頼していた人までね、殺人の被害に遭うとかね。本当に嫌なことというのは、随分この半年くらいの中に。それが、裁判になったりすると、繰り返されていることになって思い出されるのですよね。佐伯先生、中学校の不審者への指導というか、生徒に、時々お話をされたりする機会はあるのですか。

○佐伯委員 不審者かなり出ますので、出るたびに、A4の半分には、不審者のどんな人物で何時にどんなことが起こったのか、というのを上半分に入れて、下半分は、自分は前に作ったものを今年使ってもらっているのですけれども、遭った時にどうしたらいいのか、遭わないためにどうしたらいいのか、と

いうのを20項目くらい書いて、出るときにそれを担任が教室で読む、というのを4月から。

○外池委員 繰り返してやっている。

○佐伯委員 4月の頭のほうは、子どもたちもいきなり学校に逃げてきて、地域で遭うというより、家より遠い学校まで逃げてきて、先生、今遭いましたというふうに、今から110番しても、とっくにもう犯人逃げてしまったというようなことが多かったのです。そういうときは、とにかく大声出して逃げる、近くの民家に逃げ込む、そこからすぐに110番する、というような指導をずっと繰り返していたら、つい最近、同じ日に2組、違う場所で不審者に遭ったのですけれど、2組とも、近所の民家に駆け込んだり、近くのお店に駆け込んだりして、そこからすぐ110番してもらいました。お巡りさんもすぐ来て、パトロールも全て終わって学校に報告というように、正しい順番で子どもたちが行動するようになってきました。繰り返し繰り返し、遭わないためにこうする、遭った時はどこでもいいから駆け込む。すぐに自宅に逃げるといえるのは、自宅がわかってしまうので、危険だということも全部プリントの中に入れて、毎回、また、と言われても刷りこんでいって、子どもたちが安全に行動できるようにしています。

○外池委員 まあともかく、駆け込めば、地域の人はずっと助けてくれるよとかね、そういうことが、いろいろな形で広がっていくといいですね。

○大月副議長 どういう不審者なのですか。

○佐伯委員 不審者ですか。もう様々ですね。露出とか、追いかけてくるとか。一番最近のは、一週間ほど前に、手に刃物のような何かを持っていた。刃物かはわからないけれど、きらっと光る何かを持って、追いかけてきたというのがひとつと、それから男性ですけれど、下着を被って追いかけてきた、というのがありました。茶畑の陰から。

○外池委員 一中の生徒はかなりね、東村山に近いところから、30分かけて通っていますものね。或いは山のほうからね。

○佐伯委員 湖畔のほうは今まであまり記憶がないのですけれども、どちらかという、高木神社に向かう道のどこかというのが多いかな。スポット、不審者が出没するところ。

○杉本委員 民家が少ないですね。

○荒川議長 つかまえてみると結構遠くから来ているのですよね。そういう場所にわざわざ来るのですよ、遠くから。

○杉本委員 夏の時期で言ったら、プール授業なんかありますよね。やはりプール授業の更衣室に不審者が入って、去年一度、そういう事件がありましたから、もう出入り口のフェンスは、入ったら全て施錠すると、外から入れないように。という心掛けにはしていますけれどね、異常者は何するかわかりませんからね。例えば物を盗むとか、その程度ならまだ良いと言ったら言い方悪いですけど、危害を及ぼすのは、そういうことになるとやっぱり、これが一番重要な事項になりますので。やはりずっと過去のテーマと言いますか、書いてもらっていますけれど、前回は私言ったかもしれませんが、2年の任期と言いますか、こういうひとつの任期満了までに、やはり何かひとつ絞り込んで、災害に対する対処とか、全部大事なのですけどね。こういうことは、教育委員段階だけで解決できる話題でもないですし、やはり我々が話し合って提言するという、絞り込んでやるという、何かテーマをひとつふたつくらい、絞り込んで、それを集中的に話し合う、というほうが私は良いのではないかなと。あまり窓口が広がると、テーマがなんとなくピンポイントがボケてしまうというか。できたら、子どもの安全とか、それを絡めた地域社会。これに対する社会教育はどういうふうであればいいか、というのを議論と言いますか、研究テーマにしていけば。せっかく学校からの方もお越しになっていますし、そういうところ

で問題点とかを出して、提言に何かまとめるというやり方のほうがいいのではないかなと私は思いますけれども。

○外池委員 子どもの安全と地域社会ですね。キーワードが今出ましたけれど。

○荒川議長 なんとなくそこらへんが。今の具体的なお話なんかも、事例集めればいろいろな学校の指導もあるし、それを受けて地域がどうしたらいいかというのも、地域に広めれば、社会教育が大きな役割を果たすと。

○杉本委員 地域の中では高齢化で、高齢者が大勢住んでいるわけですから。ただ高齢者と言いましても、元子育てをされた方々ですよ。だからいろいろな意味で、自分の孫とか、そのへんも子どもたちを対象に、何かSOS的な受け皿になれるか。或いは、ほんのわずかでも外へ出る。家の外へ出て、目があるということ、環境を作ることによって不審者が降伏する。ここはもうだめだな、目が多いな、という意味で、向こうに警戒心を持たすような仕組みができれば、いいのではないかなと思いますけれど。

○荒川議長 かけこむ先で子ども110番の家というのが貼ってありますけれどね。あれだって時々手入れしないと。そういうのを改めて喚起する、全国的なニュースもあるし、必要性もある時期には来ていますよね。あれだって、一回頼んでからそのままになっていたら、頼まれたほうも忘れてしまいますものね。

○杉本委員 年数経っていますからね。それと、やはり先ほど先生が仰ったように、何かスポット、一番発生しやすいスポットというのが、市に、無数にはないと思うのですよね。重点的な。重点的なスポットをどうカバーするかというふうに絞り込んで、やっていけば、何か手が見つかるかもしれませんね。

○荒川議長 ハザードマップですよ。痴漢のハザードマップ。それは学校では多分やっているのですよ。それが地域に本当に下りているかと言ったら、保護者には行っているけれど、それ以外には伝わっていないとかね、そういう方策を立てるとか、そういうのは良い事ですよ。

○杉本委員 PTAのお母さんたちもそういう情報をもらって、うわあ大変だ、という気持ちはあるのですよね。ところが、やはりそれに応じられない。状況でもあるのでしょうから。やはりそのへんにもうPTAの役が終わった高齢者、そういう方が逆にお手伝いするようなコミュニティができれば、少しは良い社会になるのではないかなと思うのですが。

○荒川議長 犬の散歩を、その時間に通りましようとか書いてもらおうと、うんと助かるのですけれどね。

○杉本委員 玄関打ち水しましようとかね。掃除しましようとか。落ち葉拾いしましようよとか。そういう形でも良いですからね。

○大月副議長 わんわんパトロールというのが、犬の散歩をする人たちに腕章を渡すのがあるのですけれどね。

○荒川議長 今もその制度あるのですか。

○大月副議長 ありますけれどね、ちょっと、あれしてますね、自然消滅していますね。

○荒川議長 時々手入れしないとだめなんですよ。

○大月副議長 腕章巻いて。私は犬飼っていませんので。

○杉本委員 自治会は夜、拍子木持って夜の見回り、一部ありましたですけど、それではなくて、昼間のちょっとした。同じ散歩に出るのだったら、子どもの通学路を歩きませんかとか。

○荒川議長 そういう知恵を全部集めてみて、それぞれの自治会なり地域なりで、取り入れられるものは取り入れましようという動きになれば、いいですよ。

○杉本委員 別にワンパターンでなくて良いのですからね。

○大月副議長 市役所は、ああいうアナウンスは本当に、そういう時こそ活かせる形ですよ。下校も

ね、安全なお願いだけではなくて、不審者が出たら不審者情報をあれで流したら、効くと思うのですけれどね。犯人は逃げてしまうと思いますけれどね。

○佐伯委員 今不審者の他に正義感からくる脅威というのがあります。子どもたちが、車に轢かれそうになって、暴言吐かれたというのが2回くらいあったり、自転車で蹴飛ばされそうになったというのがありました。訳を聞くと生徒が狭い道を広がって歩いている。どんな教育しているんだと。そういう正義感からくる脅威というのもあるのです。去年までのテーマをずっとさっきから眺めていて、自分も学校からの視点でしかものが良く見えていないのですけれども、なんとかしなければというのは、不登校の子。不審者。問題行動。中には、家庭が地域で孤立していたりするケースも多いです。様々な学校で対応している問題の、保護者の方とか家庭環境を見ると、地域で孤立しているところも多いかなという感じですよ。どこに助けを求めていいかわからない保護者が、子どもと一緒に困っているというのが結構多いかな、という感じですよ。

○荒川議長 生活もきちんとしていて、子どもが引きこもっている場合には、助けようがあるんですね。親が似たり寄ったりだと、関わりが難しいよね。

○杉本委員 不登校の子は学校に行かない間というのは、ずっと家に居るのですか。或いは、どこかへぶらぶら出かけているのですか。

○佐伯委員 非行傾向の子はぶらぶら出かけていますね。そういう人は、心配ないと言えば心配ないですよ。心配ですけど。

○杉本委員 引きこもっている子が。

○佐伯委員 そうですね。パソコンとかスマホは持っているから、ずっと何か電子機器で遊んでいるという。

○外池委員 何か子どもの健全育成と繋がってきますね。本当にね。そうですね、横断歩道でいつも旗を持ってやってくれている人だとか、空掘川の清掃ですか、随分ボランティアで。私こう眺めているだけなのですけれどね。感心だなと。地域の人達がね、いろいろな形で、無償で、そういう心ができている人たちもいらっしゃるのですよね。それが上手く、機能していけるようになるといいかなと思いますけれども。

○荒川議長 親が社会との接点が乏しいと、そういうのをどこからそうになっているかというのを調べるというのは、かなり難しいと思いますけれど、ひとつのルートとしては、ひとつのルートですよ、土着の人もいるのでしょけれど、あまり少ないような気がする。だんだん都心から奥へ、社会的に追い出されてきているという感じがしますよね。ある意味では、区部の人たちでも、いろいろあれば、賃金も少ないし、安いアパートへ入っていく。それでまた仕事も上手くいかないし、アパートも高いからって、だんだん山の中へ入っていくのですよね。五日市とか、あっちのほうへ入っていくのですよ。流れて流れてくるのですよね。そうすると、山の中だから自然豊かで、子どもは健全に育っていると言えばとんでもないですよ。結構手こずっているのですよね。やはり社会的弱者という層が間違いなくいるし、それがだんだん都心に行くということはないように思うのですよね。東大和なんか、まだ中間地点。もっと奥がある。

○佐伯委員 課題は家庭の教育力という話がありましたけれども、学力が低いには、手を入れていく必要があります。

○荒川議長 全般的に。

○佐伯委員 一部だけでしょうか。

○荒川議長 いやいや、そうではないのですよ。同じなのですよ。私は前々から思っている。なんでこ

んなに。今の教師も一生懸命やっているけれど、以前からのデータがかなり上がっているのですね。なんでだろう。特殊性が何も思い浮かばないと言ったことがあるのですよ。何がこんなに低いのか。こんな自然豊かで、今言ったように社会的弱者の方ばかりがことさら集められている地域ではないし、歴史的にだってそんなものはありませんからね。

○佐伯委員 あんまり困らないのではないかと思うのですよ。

○荒川議長 それはありますよね。

○佐伯委員 教員のほうは、なんとかしようと皆思っています。どこの学校でも九九が言えない人が中学校3年生くらいでもいます。あんまり子どもは困っている節がなくて、何でなのかなとちょっと思うのです。卒業後高校も、なんとなく最終的に収まるから、そんなに困っていないのかなと感じます。

○荒川議長 杉本さん、この地域は古いですか。

○杉本委員 いいえ私は、30年前ですか。越して来たのは。それまでは関西にいましたから。

○荒川議長 そうすると今の話なんかはやはり、何か違うように思うのですよね。そんなに勉強しなくてもいいとか。

○大月副議長 一中あたりはなんというか、歴史がありますよね。昔からの、今は新興住宅で、新しい人も越してできているのでしょけれど、それでも、古い人多いですよね。多分。もともとそこに住んでいる地域。我々、ここに住んでいる私たちは南街と言いますけれども、ここから見ても向うの、なんというか、昔の本村というのですかね、本村と南街で、あまり仲良い地域ではなかったのですけれど、私も一中の卒業生ですけれどね、あそこへ通いました。学校なかったの。途中から二中ができて、私たちは一中で卒業しているのですけれどね。やはり地域では、向こうの同期の人たちとお付き合いしていますけれどね、我々の考えと、ちょっと違いますね。もともと向こうにいた人たちは、おらが村のあれが強いですから、また、今は当然、その頃は農家の人が多かったですから、今は農家というか、土地持ちですよ。自分たちの、おらたちの土地を、お前たちに分け与えている。買ってもらったのではないです、分け与えている。そういう考えを持っている人たちが強いですから、多分そういう、全部が子どもたちに該当するわけではないのですけれど、強いのかな。地域的にそういうのがあるのかなと思いますけれどね。

○佐伯委員 進路希望調査を見ても、皆全然無茶を言わない。行けるのではないかな。

○大月副議長 二中と一中のあれは温度差あるかもしれないですね。こっちがいいという訳ではないですけれどね。

○佐伯委員 代々ここで育って、このぐらいの学力で、このぐらいの高校行って、幸せに生きて来ているから十分だよと、ある意味幸せなことだと思うのですけど。

○大月副議長 競争心がないのかな。上がっていきこうというのがないのかもしれないですね。

○荒川議長 地域で学力が一番高いというのは東京なんか見れば分かるのですね。国家公務員住宅がある、あそこは高いですね。親はろくな財産持ってませんからね、えらくはなっただって財産持ってませんから、必死に勉強していい学校行かなければ、収入はもちろん保障されませんよね。そういうのがあるのですね、都心部当たりの公務員住宅、高級官僚が住むような地域というか、高いですよ。またそれはそれで気の毒だね、子どもはね。

○大月副議長 全部じゃないけど土地が広いですよ。

○荒川議長 土地切り売りしたって3代は十分大丈夫ですよ。切り売りして生活していくわけですから、それを転がしながら生きていくわけですからね。そんなに必死に学力を付ける必要は無く、社会的には裕福な生活をおくれるというのはありますよね。

○大月副議長 土地持ちですからね。

○佐伯委員 一般的にそういう子たちが多いですからあまり困らない。

○荒川議長 不審者対応とか新潟の小針の事件なんかも大きな課題だから、それが一つと、交通事故も道路にひっくり返ったなんていうのも、あれも交通事故というべきか、地震事故というべきかありますけども、そういうところをもう一回地域を見直して、やっぱり、学校は学校でやっているのだから、それにわれわれがいうわけでないから、社会のお父さん、お母さんもちょっとこういうこと勉強しましょうよと。しっかりと子どもを守るいい地域を作りましょうと。親だけじゃだめだから、地域づくりが大事でしょ。新潟の小針の事件なんかみたって、親に送迎しろというの日本じゃちょっと難しいですよ。やっぱり地域で見守る以外ない。それは地域が子どもを大事にする。そしてどうしたらいいかということがわかる。これは社会教育そのものですから、そこらへん中心に詰めていきますか。そうすると私が思うには、地震にまで取り込むかどうかなのですよ。大地震まで取り込むと、これはまたでっかいから、せいぜいブロック塀が倒れるくらいまででね。大地震があった時に、子どもをどうするかなんていうのは、ちょっとでかすぎるから、それは知っていますが、今回はやりませんと。

○杉本委員 あえて言えば通学路の安全確保とか、そのへんです。

○荒川議長 ブロック塀ぐらいのレベルかなと私は思うのですよね。

○外池委員 いろいろ小中学校でセーフティ教室とか、年間1、2回やっている。外部の人を呼んで。何かスタントマン来てテレビで放映されたみたい。保護者の間にずっと広がったりなんかしていて、いろいろな形でやっているのだなと聞いてます。

○荒川議長 交通事故と防犯とそれから薬もやっていますよね。そういうのまた学校関係から全部洗い出して、学校と連携をどうするかというの調べてみるとか、結構でかい範囲にはなりますけれども、焦点は絞れますよね。

○外池委員 無理な部活動の指導とか、それが今大学のほうでいろいろ言われているけど。

○佐伯委員 今、東大和市はガイドラインがまだ出来上がっていないのです。スポーツ庁が出した部活等運動部に関するガイドラインは、都もほとんど同じものを出して、区市町村は独自のものを作りなさいとなっているのですが、東大和市は今検討中ということです。出ていないのですが、一中なんかはもう都のものを使いながら、ちょっと活動が時間が長いとか、活動日の休みが無いとかいうところは手を入れて、一学期中に出来たところです。先生たちの働き方改革とかも言われて、タイムカードが5月から全校に導入されたのですが、超過勤務の時間が5月、6月は100時間、過労死ラインの80は超えてはいけないというラインを軽く超えて140とかね、100超えている先生がいて心配です。

○荒川議長 ほんとに過労死したら管理責任問われちゃう。

○佐伯委員 そうなんですけど何よりその人の体が大事です。

○荒川議長 自分の管理職の身じゃないんだ。

○佐伯委員 なかなかそこらへんもとっても難しいな。

○荒川議長 昔はそういう熱心な先生、評価されましたからね。歴史がありますからね。部活やらないとやっぱり評価されなかった。

○佐伯委員 教育長も今後コミュニティスクールを増やしていくと。国全体もコミュニティスクールは圧倒的に多いから、コミュニティスクールの成功例も失敗例もあるので、そのへんの検証していくのも次の段階としては面白いのかなと思うのですが。

○荒川議長 これ大事なことだと思うけども、まず学校教育のほうが先に出てもらわないとね。社会か



ら先に出て行くものではないと思います。同時なのだろうけど、どちらかといったら学校が先ですよ。

○佐伯委員 東大和の先生方は、あまりコミュニティスクールの経験が無いかもしれません。

○荒川議長 必要性を感じていないかも。

○佐伯委員 失敗例見ると嫌になっちゃうけど、成功例もあるのです。

○荒川議長 大方向として、子どもの安全を支える社会教育というようなことで取り組むということで、次回、今日欠席者もいますので、次回そこで正式に決定するというある意味では原案、そんなことでよろしいですか。ひと月空きますから、どんなことを研究したら、その狙いに到達するかと、柱とか、基本方針とか、そんなこともプリントでなくても結構ですから、まとめて次回お集まりいただければ、すぐまとまるとそんなふうに思います。ここまでなんですよ、この会議の難しさは。何をやるかということが決まらないとね、あわてて決めてもね、自分はそんなことを協議したくなかったというそれは力が入りませんから、おかげさまでというべきか、大体方向は決まりましたね。時期もいろんな事件あったので良かったかなと思うのですね。1年半結構長いようで短いですから、これからそれを中心に研究を深めていきましょう。よろしく願いいたします。その他、事務局から何かありますか。

## 2. その他

○手塚主事 はい、「全国社会教育委員連合の持続可能な発展のためのアンケート調査の実施について」説明させていただきます。資料の1をご覧ください。こちらは6月の会議の直後に、都市社連協を通じて全社連から依頼がありました。締め切りが、書面ですと7月6日になっているのですが、全社連のほうには回答が24日以降になるということのを了承を得ております。3枚目からがアンケート調査表になります。4枚目などに、経費のこととか、予算収支のこととか書いてありますので、そちらもご覧になっていただいた上で、何か委員の皆様からご意見等ありましたら、伺いたいと思います。事務局からは以上です。

○荒川議長 これ一人一人出すようにしますか。無ければ特に。

○手塚主事 意見が無ければ、無いでこれは、大丈夫です。

○荒川議長 じゃあ、ちょっと見ていただいて、何か意見があったら今言えいいわけね。

○國森係長 もともと全国社会教育連合の、要は財源不足というお話がずっとあったじゃないですか。たぶんそれが背景にあって、こういったアンケートが来ているのじゃないかと思うのです。

○杉本委員 「持続可能な発展のためのアンケート」と、今年からの者には意見が出しようがない。

○國森係長 ですよ。そもそもどういことをやってる組織かもわからないです。

○杉本委員 予算だけ言ったら金額が結構あるんじゃないのですか。収入が一千数百万でしょう。

○荒川議長 事業を絞りこみたいという意図なんですかね。さっき係長が触れましたけども、予算が厳しいのですよ。この都市社連協の会員というのは都道府県、政令市だけで、われわれが会員というわけではないのですよね。都道府県、政令市、そこから出している金で、それは一般の社会教育委員がいくら出さずともそういう組織ではないのですよね。その為の寄付金という形であったか、それは受け付けているのですけど、書いてこられているわけではない。従って寄付金が増えなければ、予算は当然厳しくなるし、事業を縮小したい。したいというか、せざるを得ないというか、そういうことを明らかにしたいということですかね。

○柳澤委員 何年か、あと5年ぐらいでお金がなくなっちゃうとかいうのありましたよね。一人1000円だとか、あれとは別ですよ、管理運営費というのはね。そっちはどうなってんのかな。

○國森係長 それがやっぱり背景にあって、お金が30何年度にはなくなっちゃうから、もっと事業を

絞り込んで、支出を削減したいということですよ、たぶん。

○柳澤委員 でもこれは管理運営経費だからね、運営事務の話でしょ、事業費を削らないと。

○國森係長 そうです。だいたい今どういう事業をやっているのかわからないですよ。

○荒川議長 明日の会で出てくるのかな。理事会ですね。

○手塚主事 理事会で出るかはちょっとわからないですけど。

○國森係長 現時点で意見を出しようが無ければ、特に意見は無しで。

○荒川議長 無しでやっていきますか。

○手塚主事 ではこちらについては無しということで解答とさせていただきますので、ありがとうございました。

○荒川議長 そのほか皆さんのほうから何か、話をしておいたほうがいいかなと思うことあるでしょうか。この資料はいいことにする。

○國森係長 そうですね、特には大丈夫です。

○荒川議長 こうみんかんだよりも表面の真ん中の一番後ろに、戦争と平和について考える見学会、ありますよね。これは次世代育成講座、主催はどこだ。東大和未来大学という位置付けの一講座なのかな、公民館事業。

○國森係長 そうですね。

○荒川議長 そのひとつだよ、吉見の百穴。ここまで行くのか。バス見学会ですから行くんですね。大月さんが写真を持っているので、ちょっと説明して。大月さんのお父さんが勤めていた工場で作っていた飛行機の写真です。

○大月副議長 社会教育部の管轄の都立の南公園の変電所、あそこは日立の航空機のエンジンを作っていた軍事工場。マックス1万3千人くらいの工員さんというかな、おられた、いた工場なのですけどね。何を作っていたかという、私も最初はあそこは航空機のジェットエンジンを作っていると思っていたんですけど、そうじゃなくて、練習機、練習機の飛行機をつくっていて、ああいう戦闘機のウイングは三鷹のほうにある旧中島飛行機ですかね、そこらへんが航空エンジン作っていたみたいです、戦闘機ですね。実はたまたま先日霞ヶ浦にちょっと行きまして、その霞ヶ浦の士官学校の跡地に資料館がありまして、そこに寄りまして見てきたんですけど、本当は撮っちゃいけない模型なんですけど、たまたまこれがありまして、終わり頃だったので写真バシバシ撮ったんですけど、本当は撮影禁止のところでした。終わりごろ閉館で終わりだよという時間帯だったので、いつも監視する人がおろそかにしていたので、もう閉めることを考えてやっていますので、その隙に私バシバシ写真撮ってたんですけど、途中から撮影禁止ですと言われたけど、ほとんど私撮っちゃったんですけど、これが赤とんぼというこのエンジンを供給していた、霞ヶ浦の航空士官学校の供給した飛行機のエンジンが、その東大和の今も平和シンボルの変電所になっていますけど、工場、供給していた工場だったのですね。そのいきさつがあるんですけど、私写真撮ってきたのですね。赤とんぼというの聞いていますので。今この東大和の中野議員かな。一応保存会のイベントやったりして説明やってますけどね、何かこれと同じ模型を持っていました。はい、これを作っていたので私に見せてくれたので、これはもっと精巧のやつだと思うんですけど、ちょっと供給してみようかなと。それから社会教育部にもこれ差し上げますので、これ大事な、ただ変電所を歴史的なものではなくて、こういうものを作っていたということを強調しないと結びつかないと思うのですね。そういう意味で写真を撮ったんですけど。

○荒川議長 報告書なんかもこういうの読めるように充実させなきゃいけないという部分があるわけですよ。初めて知りましたよ。

○大月副議長 こういうものを資料に使うらしいのですよ。歴史のそういうものに掲載しちゃうらしい。だから写真を撮っちゃいけないというのわかりましたと言ったけど、もう撮っちゃった。

○杉本委員 昔終戦間際ですね、アメリカの戦闘機から撮った写真、テレビに出たり。文字どおりこの赤とんぼが、無謀にもアメリカの戦闘機に向かって、空中戦を挑んでいって撃墜されるところが映っているという映像がありますね。

○大月副議長 勇敢ですよ。もう本当にこれで向かうのだというね、資料だとこれで爆弾積んで突撃してるのですね。

○國森係長 どこで撮ってきたのでしたっけ。

○大月副議長 霞ヶ浦です。茨城の霞ヶ浦です。そこに航空用の士官学校ですから、霞ヶ浦で練習したわけ。士官学校の生徒たちが。

○杉本委員 私がいうその飛行機もそこから飛び立って、アメリカ軍に向かっていったと思うのですよね。

○大月副議長 これは練習機ですから、実際はこれで訓練して、実際は今度本物に乗ってから戦闘機ですね、ゼロ戦とかそういうのを訓練したと思うのですね。ここで士官して訓練した人たちが最後にはみんな沖縄特攻ですかね。相当の数の士官学校の生徒が突撃して行ってますね、知覧とかいろいろなところから。たまたまうちの父も軍属の関係でここにいましたので、爆死していますので、この変電所の後ろに石碑があるのですが、そこに私の父親の名前も110何名の中に名前刻まれています。いろいろ撮っているのですけど、寮生がハンモックで暮らしていたとかね。

○荒川議長 霞ヶ浦は工場があったのですかね。

○大月副議長 工場というか、訓練校。この練習機で練習した。このエンジンを供給したのが東大和の工場ですね。ここだけじゃないと思うのですけど。あちこちにいろんな練習場あったと思うのですけど。

○荒川議長 吉見百穴なんていうのも作っていた場所なんですよ。穴は奥深いのですよ。これ地下ですね、ここで機械回したのじゃないですかね。

○大月副議長 きっと戦争の終わりの頃でしょうね。

○荒川議長 吉見百穴はここから近いからご存知でしょうけど、あれも昔は何だかよく分かんなかったけど結局、お墓なんですよ。山の一面に穴が開いてるから、なんだか住んでた、コロボックルが住んでたとか言ってたけど、そうじゃなくてあそこはお墓なんです。だからちょっと高い段があってそこに遺体を置いたのじゃないですか。その中でっかい防空壕を、防空壕じゃない、工場ですね、作ったのですね。不自然にもでっかい、うしろは深いしね。今入れるかどうか知りませんが、昔はみんな穴の中をつたい歩きして、どんどんどん遊んだ場所ですからね。こんなところで繋がるとは思わなかったな。特に無ければ終わりにしたいと思いますけどよろしいですか。

○國森係長 一点だけ、初めての方もいるのですが、社会教育委員の会議が8月だけお休みになるのですよ、それでちょっと8月は以前から話しているように、うちの方で8月18日に平和市民の集いということでやらせていただきますので、恐らく案内も送らせていただく形になると思いますので、もしご都合の合う方はぜひ見に来てください。よろしくお祈りします。以上です。

○荒川議長 いろいろな案内が来ますからね。できるだけ時間があればちょっとでも顔出して、挨拶ですぐ回り見てくださいますというものが多くはありますが、一生懸命10分でも来ていただければ、担当者としても励みになるといかにそうだと思いますのでお祈りします。じゃあお疲れさまでした。